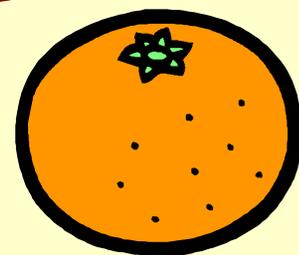
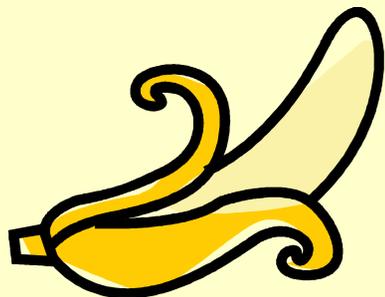


日記



Bブロックにエントリーされた全12作品を公開します。

覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。

好奇心のむく先

5月9日

バナナを食べた。

5月10日

今日は輪切りにしたバナナを皿に盛って食べた。

5月11日

皮を剥いたバナナをナイフとフォークで頂く。

ささやかに高級感を感じる。

おかげで優雅な1日を過ごせた気がする。

5月12日

動物園のゴリラがバナナを皮ごと食べていた。

これは真似できそうにない。

敗北感に任せてバナナを二つに折る。

すると、潰れもせずきれいに真二つになった。

興味深い発見である。

5月13日

新たなバナナの食べ方を耳にする。

難易度が高そうなので明日挑戦してみよう。

本日のバナナは初心に返って普通に剥いて食べる。

5月14日

まず、バナナを半分ほど剥く。

次に先端に指を押し当て徐々に力を加えていく。

やはりバナナの身は柔らかく、だんだん潰れ始めた。

指が汚れるのを気にしだす頃に、変化が起こった。

バナナが、裂けた。

噂どおりなんとも愉快である。

この日、私の中のバナナブームは静かに幕を下ろしたが、世界にはまだまだたくさんさんのバナナの剥き方があるのだろう。いつか素晴らしいバナナの剥き方にお目にかかりたいものだ。

5月16日

みかんを食べた。

暖かい人

六月十一日

雨が降っていた。

初めて見た雨はとても冷たかった。

ぼくは昨日人間に捨てられた。

「良い人に拾われるんだぞ。」

それが、ぼくがあの人から聞いた最後の言葉だった。

ぼくは今の家であるダンボール箱からよじ登って外を見る。

外には今まで見たこともないほどたくさん人間がいた。

けど誰もぼくには目もくれず歩いてゆく。

ポツッ

額に何かが当たった。雨だ。ぼくはあわててダンボール箱に戻った。

最初は小雨だった雨もしだいに強くなって、ついに雨音はザーザーって音になった。

ぼくは怖くなって家の隅っこのほうで震えていた。

その間も雨は家を強くたたき続けていた。

六月十二日

目を覚ますと雨は止んでいた。

どうやらぼくはいつのまにか眠ってしまったらしい。

ぼくが家の外を見まわすと、あれだけたくさんいたはずの人間はいなくなっていて、まるで世界にぼくだけしかいないようだった。

ぼくは寂しくなつてひたすら鳴き続けた。

どれくらい経つただろうか、ぼくの声は枯れて、疲れ果ててしまった。

そんな時、ぼくを抱き上げてくれた人がいた。

「もう大丈夫だから。」

その人はそう言うと、ぼくを抱いたまま歩きだした。

その人の胸の中はとても心地よくて、

なにより暖かかった。

最後の晩餐

私は今迷っている。迷ってこうして書いている。本来なら書き出す前に決めるべきなのだが、どうにも決心がつかない。そして一刻も早くこの作業を止めるべきなのだろうが、筆が止まらない。何せ長年の日課だったのだ。骨の髄にまで染み付いてしまっている。もしかしたら一種の中毒なのかもしれない。

まずは整理も兼ねて、今の私の置かれている境遇について書いてみる事にする。現在私の乗っている船は漂流している。辺りに陸影はまるで見えない。幸いな事にまだ帆は残っているし舵も動くが、現在地が不明な為、どの方向に進めば一番早く陸地に辿り着くのか分らない。なのでそのまま走らせている。そしてこの船の乗客は現在、私一人しかない。他の乗客・乗員は全て、不運な出来事により、いなくなってしまった。ちなみにあまり書きたくはないが疫病、などがここで言う不運な出来事の例だ。

そもそも船の中に乗務員でない者が独り残されたという時点で危機的状况なのだが、更に悪い事には食料まで尽きてしまった。本来は食用とされない物も含めて、である。周りの海には魚もいそうだが、残念な事にそれを釣る術がない。まだ水はあるのでしばらくは保つが、このままでは遠からず私の命も尽きるだろう。そこで私は迷っている訳だ。この日記の紙を食べるか否か。

紙を食べるのなど簡単だ。酢をかけて、煮てしまえば良い。味はともかく、何とか食べられるようにはなる。既に船内にあった普通の紙類は、そうして処理して来た。ところがこれは長年愛用している上、最近ではこうして書かないと正気を保っていられそうにない。昨日もそろそろこれを本来の使用目的から食用に変えるか迷ったが、結局出来なかった。しかし最早迷える時間も段々となくなっていく。長柄に備えて用紙は多めに綴じて来たが、それもかなり減って裏表紙はすぐそこにあるし、空腹も限界にきている。早く決めて、出来る限り多くの枚数を食用にしなければならぬのだ。

日記のそれまでに書いた部分を食べる、という案はこの場合実行は不可能だ。愛用しているこのインクは、試作に試作を重ねた結果出来上がったもので、その中にはクロムなどの毒物がふんだんに含まれている。これを食べたら、間違いなく私は餓死より先に死ぬだろう。選択肢は他にない。分っているだろう？

それでもやはり、なかなか決断を下せない。もう残りの枚数は、ほんの僅かだ。これを煮て食べて、一日を生き延びるか、それともどうせ助からないのなら最後まで埋めるか。

とりあえず、過去に書いた部分は破って壘に入れて、海に流してみよう。

B-4.

四月三日

今日は晴れだった。

Three days boy

1999年8月13日(金)

今日から交換日記の始まりだよ~(。)
表紙裏に書いてある所が共通のポスト
トになるからヨロシクね(*_*)手帳
大のノートだから、1日1ページの
ペースでお願いっ!簡単だよねえ~
(。ー)日々の積み重ねが大きな力
を生み出すんだからねえ~!(。o)/今
日から何時まで続けられるかな!?

1999年8月14日(土)

交換日記、久しぶりだな~。小学
校の班でやらされて以来だ(笑)
2日に1度だけど、1ページが意
外に少ないから何とか文章が苦手
な俺でも書けそうだな。まあネタ
が尽きないように毎回頑張って書
いていきますよ~。それじゃ、こ
れからもよろしく!

。
。
。

2000年1月1日(土)

明けましてオメデトウ~!!\(^o^)/
おめでとうございます! 今年1
年よろしくお願ひしますよ~! こ
ちらこそ一、ってか、何で向かい
合わせで筆談みたいなことを(笑
いいじゃない~♪毎日書かないとい
けないんだし、20世紀最後だし(^_)

20世紀関係ねえ~!(笑このま
まじゃ番組見逃すからここでおし
まい!

ええ~~(。D)

『ええ~~(。D)』じゃないっ!

。
。
。

2001年10月15日(月)

昨日はごめん……まさかあんなこ
とになるなんて思わなかったから
……。でも、あの時にあんなこと
言うのはさすがに自分はダメだよ
ね……また来週には会ってくれる
よね……?

2001年10月16日(火)

卑怯だよ……。本当は私が悪いのに
あなたから謝るだなんて。これじゃあ
私が丸つきり悪いことになるじゃん…
…。今度会った時は、初めに私が謝
るんだからね……絶対に。

。
。
。

2002年5月28日(火)

とうとう17冊目最後のページに
なったね。最後のページだから自
分の本当の気持ちを書こうと思う。
俺たちが出会ってもう4年になる
し、この日記も2年半以上になる
ね。だけど俺たちはあの頃からだ
いぶ変わっちゃって、もう戻れな
いのかな。俺もただ君が好きだな
なんてことじゃなくなって、このま
まじゃいけないと思う。けど俺た
ちは前に進まなきゃいけないから、
この日記を終わらせちゃうかもし
れないけど、この言葉を最後に書
くよ。

「ケツコンシヨウ」

P.S. 驚かしちゃったかな? ちなみ
に俺はこのまま永遠にこの日記は
続けたいな。

~1020日と17冊の重み~

錯綜

7月20日

7時半に起床っ！自転車ぶっ飛ばしたかいあって、八時前の電車でギリギリセーフ！電車は相変わらず超満員だった！超可愛い子が目の前にいたから、気になってさりげなく見てたんだけど・・・その子の後ろにいるオッサン！チラチラその子の携帯画面盗み見してんだよ！いい年して許せねえ！そういや同じ車両に中学一緒だった木下にすげー似てる奴がいた！終業式には何とか間に合った！高校最後の夏休みは全力で楽しむぜ！

7月20日

今朝は疲れた～完全に遅刻。7時50分くらいの電車に乗ることになっちゃって。途中で乗ってきた目の前のチャラ男の視線が本当にウザかったよ～見てないふりしてるのってけっこうわかるから。すごい視線感じたんですけど。しかも後ろのオッサンが超酒臭くて。朝からあの匂いはないってば。あ～今日はこんな下らないことしか書くことのない、下らない一日でした。課外授業ほんとにメンドクさいよ～。結局遅刻したの私と木下君くらいだったし。みんな真面目だなあ。進学校だなあってこんなところで実感しちゃう。

7月20日

今日は奇跡が起こった。同時に三人もの知人を朝の電車を見た。まず同じクラスのヤー子を見つけた。それから中学校で同級生だった町田。見た目が変わりすぎてチャラチャラしてたから最初は気付かなかったけど。ヤー子と一緒に立ってたし、ずっと彼女を見つめてたから、もしかしたら彼氏なのかなあ。本当は町田に声かけたかったのだけど、ウチの親父もヤー子の後ろに立ってて。今日は会社休みじゃなかったのかよ。完全に俺のが早く家出たし、「コンビニでジャンプ立ち読みしてたから学校遅刻しました。」なんて言えないし・・・結局三人の誰にも声かけられなかったな。まあ誰も俺には気づいてなかっただろうけど。

7月20日

今日は本当にツイてない。せっかくの off だったのに発電所の故障で緊急に出勤要請がきた。頭がガンガンする。確かに昨日は飲みすぎた。久しぶりに同郷の友達と会って、仕事を忘れられたのに。通勤途中の寿司詰め電車内で、たまたま前に立っていた女学生のメールの内容が見えてしまって。「後ろのオッサン超酒臭い。」という内容だったから私はさらに落ち込んだ。しかもその女学生の前にいた男子学生に物凄い顔で一瞬睨まれた。同じ車両になぜか息子がいるのに気づいたが、今頃はもう寝てしまっているだろう。明日話そう。

「交換日記～みっちゃんとさっちゃん～」

5/10 (木) みっちゃん、今日は外で写生会でしたね。私ほうさぎの絵を描こうと思ったんだけどどうさぎはすぐ動いてしまって細かいところまできちんと描けませんでした。みっちゃんは上手に描けましたか？

5/11 (全) さっちゃん、みっちゃんはね、こうていにあるうごくせきぞうをかいたよ。うごくせきぞうなのうごかないからみっちゃんはらくちんでした。

5/12 (土) みっちゃん、二宮金次郎像は動かないよ！気をつけて！あと曜日の字、間違ってるよ…。

6/5 (火) みっちゃん、今日はお見舞いに来てくれてありがとう。「はやくげんきになってね」っていうみっちゃんの言葉で風邪なんか吹き飛ばしてしまう気がしました。日記でも私のこと気遣ってくれてありがとう。木曜日には学校に行けると思います。

6/6 (水) さっちゃん、さっちゃんが元気になってみっちゃんもううれしいよ。あとね今日先生が明日までにけいさんドリルとかんじドリルをやってきてねって言ってたよ。ここにかいたらさっちゃんわすれないね☆みっちゃんえらい！

6/7 (木) みっちゃん、そういうことは昨日私の家に来たときに言ってよ～宿題出す日の朝に教えられてもできないよ～/(´∩`)

7/13 (金) みっちゃん、もうすっかり夏って感じがするね。毎日暑いよ。みっちゃんは明日海に行くんだよね、いいなあ、日記に海のこと書いて教えてね！

B-8
「メビウス」

年月日 _____ 「僕」は生まれる。

「僕」は至って普通の人生を送っている。まるでそうすべきだともうわかっているかのように、学生時代を駆け抜け、社会人になり、今では結婚し子供もいる。

年月日 会社から帰ってベッドに潜る。妻は隣で既に寝息を立てている。しばらく横になっていると胸が痛み始めた。何度も何度も経験してきた様な痛み。なぜか恐れは感じない。徐々に眠くなってくる。徐々に徐々に・・・「僕」の意識は薄れていく――

――ふと目覚める。隣に寝ていた妻や子供の姿がない。どこかに出かけて行ったのだろうか。頭がすっきりしない。何も考えられない・・・

・・・妻や子供が口をきいてくれなくなってから何日経っただろうか。日にちの感覚がない。さっき会社に通勤してない事に気が付いた

会社に行っても誰も話してくれない。綺麗に整った「僕」の机。ふと違和感を覚える。でもそれがまだ何なのかはわからない――

――妻が子供と出かける用意をしている。何か用事でもあるのだろうか。カレンダーに目をやると一箇所だけ丸印がつけられている。どうやら妻が口を聞いてくれなくなってから7週間も経ったらしい。妻の後を「ついて」行く事にする。なぜかそうしなければいけない様な気がして。何も語らず、ゆっくりと――

――妻がある場所で足を止める。

「そこ」に「僕」の名前が書いてある

はっきりと

はっきりと

まるでそこにだけしか

「僕」が

いないかのように……

年月日 そして「僕」は _____

密やかな愛の独白

七月九日

元来日記など書いた本人の自己満足のためにあると考えていたので白紙で提出を続けてきたこの他称「日記」に文字を記してみようなどと思いついたのは、遠く聞こえる雨音のせいだろうか。外ではまだ紫陽花の藍色が生きているのだろうか。
自己満足……Iのために……

七月十日

コメンテーターの聞き飽きたご意見、ナルシズム溢れる社説、テレビ欄と中吊り広告に躍る「ショッキング」な見出し、それらの全てにもはや意見を言える身ではないが……。画面の向こうの「少年による残虐な犯行」を着に酒を呷りながら、どこかで十の歳の少年が九の歳の子供を罪悪感なしに射殺する日常の上に寝転がるのを俺は拒絶しない。何せ俺はあなたがたと違い「残虐な殺人者」、光り輝く聖者には程遠い。どうして世界の闇に吠え掛かれようか。世界を相手に叫びたい数多の問いは、自分もまた、その世界の一員であるという事実の自覚によって、押しとどめられる。今日は蒸し暑いな。

七月十一日

アッシリア帝国では、できうる限り残虐に敵を殺したという。曰く、帝国に逆らう者は神に逆らう者、厳しく罰せねば、自分たちが罰せられる。俺は、アイを殺したアイの養父を殺した。できうる限り、残虐に。十代少年の行き過ぎた復讐劇。アイのために……。今日、「君の中のアイさんは、復讐なんか望んでいたのかい？」と聞かれた。「君の中の」をつけたのは、なかなかいい心がけだ。俺は、死んだアイを神聖化なんてしやしないよ。また、雨脚が強くなった。

七月十二日

俺もアイもあまり健全な環境に生きてきたわけではなかったが、それを愚痴るつもりはない。「ああ、どうして、この甘ったるく、なま温かく、緩く、柔らかで、丸く、ぬるく、ふわふわして、そんな世界での苦しみを、嘆き、叫ぶことなど

できようか？」芝居がかった仕種でアイは説いた。

互い寄り合いながら、強がって、あるいは、俺にだけは弱みを見せてくれと、そう言葉にできなかつた俺のせいでアイは死んだのかもしれない。でも、そんな自分の弱さを紛らわすために、俺はナイフを握ったのではない。小さな雷が一つ鳴った。

七月十三日

「意識が、量子重力で説明されるなら愛はまさしくi、虚数な存在ってことよね。」難解な物理学の本をアイはそう一行でまとめた。まさしくiのために、虚ろな存在のために……。なるほど、二つのちっぽけで弱々しい虚ろな存在が合わさっても、負しか生まれぬ。重たい空気のまま、結局今日は一粒の雨も降らなかつた。

七月十四日

確信犯とは本来、それを正義と確信して罪を犯す者のことを言う。皮膚を剥ぎ、両目をくり貫いた生首を手に自首したのは、自己主張のためではなく、事態を早く飲み込ませるため、ただそれだけ。もう、何もいらぬ。大事な物は手に入れた。雨音を聞かなくなつて久しい。たった二日なのに……。これが日記の魔力か。

七月十五日

動機を、白状しよう。それは、愛のためだ。それも、とびきりの純愛だ。それは、アイのためでも、Iのためでもなく、愛をiにしないため。そのために、俺はアイの養父と、俺を想う俺の中のアイすら殺した。俺は発狂した。アイを失つてなお、狂うことのない自分に、「そんな世界」に生きていける自分自身に発狂したのだ。俺は、Iのアイへの愛がiであつたのではないかとこの恐怖に駆り立てられた。それが何の愛であつたのかわからなくなりつつあつた。俺は愛が本物だつたこと、狂うほどの愛だつたことを証明するために殺したのだ。愛のアイデンティティーのために。そして、手に入れた。愛への愛、唯一の純愛。梅雨明けが発表された。灼熱の季節が始まる。

ポクのご主人観察日記

四月一日

ご主人が散らかった机を片付けはじめた。
なにやら真新しいノートを広げて何か始めたから、
勉強でもするのかと思っただろうやら違っみたい。
日記を書くんだって。

脱三日坊主って意気込んでるけど、
とれだけ続かたのしみだね。

四月二日

ご主人、今日は家でごろごろ。
日記に何を書くのか部屋を覗いてみたら、
机の前で天井見つめて何書こうか必死に考えてる。
日記なんだからその日あったことを書けほいのね。
どうして誰も見ないのに見栄張ろうとしちゃうんだろ。
でも結局何にもなかったって書いたみたい。
明日はなにかあるといいね。

四月三日

今日ほいいことがあったみたい。
すっこい嬉しそうな顔してる。
昨日と違っていっぱい書きたいことがあって大変そう。
何があったかはポクは家から出れないからわからないけど。
こういう日はポクにもやさしいんだ。
だから明日もいいことありますように。

四月四日

今日はずごく疲れた顔して帰ってきましたよ。
日記書くかなくなって思ったけど、
そのままベッドに行っちゃった。
ポク、夕食抜きだよ・・・

四月五日

今日はまた家でポクとぐうたら生活。
ポクの隣ですっとおねてたよ。
ご主人、日記を書こうか迷ってたけどあきらめちゃった。
やっぱり脱三日坊主宣言は失敗みたい。
四月一日って始まりの日でみんな強気になるから、
後でごまかせるように嘘ついていい日にしたのかもね。

六月二日

六月三日

浩二 が

『連鎖』

六月五日

お葬式で、やつと現実なんだと思う。実感なんてないけど。

浩二が自殺した。二日の朝、遺書とともに、部屋で首を吊っているのが発見された。

私には、そんな素振り少しも見せなかったのに、四日間何も出来なかった。

葬儀場で浩二のお父さんに会った。目の下の隈が酷い。仲が悪いって浩二は言ってたけど、そんな事ないんだと思う。何も言えなかった。

六月六日

浩二の家に行った。話を聞くと、最近何かを思い悩んでいたって。前の日だって普段通り笑ってたのに。しばらく前のちよつとした喧嘩も、ちゃんと、仲直りしたのに。どうして？

遺書には一言「ごめん」とだけ。無造作に破られたノートに、縦に小さく書かれていた。浩二は何に謝っていたんだらう？何に悩んでいたんだらう？私には分からない。それが、凄く悲しくて。

部屋も見せてもらったけれど、前に来た時よりもなんだか広くて、そして冷たかった。鞆の中はまだ前の日の用意のまま、もう、戻らないんだなって、思うと

苦しい

六月七日

学校で聞いた話では、浩二は進路について苦悩していたみたい。でもそれは違う。そんな理由で自殺するような人じゃない。それに、浩二は言ってた。自分には叶えたい夢があるって。その為に頑張るんだって。それなのに、こんな

それも、単なる噂だと思ってたのに、その出所が浩二の両親らしい。学校側にそう説明して来たと、先生がこっそり教えてくれた。そんなつまらない理由で、息子の死に納得するんだらうか？
なにか、おかしい気がする。

六月八日

少し気になった事があって、もう一度浩二の家に行く。浩二のお父さんの目の隈が一層濃くなっていったけど、私を見ると黙って部屋に通してくれた。

確認したかったのは、鞆の中身。前日に返したはずの国語のノートが見当たらない。後は全部そのままになっているのに、どうしてだろう。一応部屋中探してみたけど見当たらない。そして、見つけた。机の中の、ライブチケットの振込み受領証。一緒に保管してあったコンビニのレシートで確認する。振り込み日は、六月一日。その日自殺する人間が、ずっと先のライブの振込みなんてする？

帰り際、「何か探し物かい？」と浩二のお父さんに聞かれた。とつさに「いえ、ノートが」と答えた時、ずっとその顔から血が引いたのを見逃さなかった。

疑問が確信に変わりつつある。彼は、何かを隠している。

六月九日

色々調べてみた。浩二とお父さんは本当に仲が悪かった事。最近はずつと家に居る事が多い事。その日も物音が聞こえていた事。午前中ずつと、浩二の家の近くで聞いてまわった。自分が何をしていいのか分からない。でも知りたかったから。そして、気付いた。

それは、あの遺書。横野のノートに、普通文字を縦になんて書かない。もともと書いてあったんだ。消えた国語のノートに。多分、私と喧嘩した日に書いた文字。そして、あの反応。

確信する。犯人は、浩二のお父さんだ。

でも、これから私はどうすればいいんだらう？とりあえず明日警察に行

5 MAY 2007

とある日記のひとこま

26

金 FRI
赤口

明日書きます

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	同業者	17 pt	2 位	0 sp
		<p>サイフ1ケが紡ぎ出す愉快的すれちがい。シンプルな構成で、すべてをクリアに見せて、あ、なるほど!! と。あざやかです。</p> <p>その謎解きの爽快感がハッピーエンドのほのぼの感ときれいにシンクロして、とても完成度の高い表紙作品でした。</p>		
A02	ある自殺現場に落ちていた日記	1 pt	10 位	0 sp
		<p>10年飛んだ日付にドラマを感じました。こうやって時の経過のなかで見せていただいたので、人生を終わらせる「でっかいこと」という発想にも流れの中で自然に乘れました。</p> <p>でも医者とライフセーバーの存在が謎です。妄想の中の存在??</p>		
A03	恋時雨	10 pt	3 位	1 sp
		<p>雨粒さん、究極の自己犠牲。せつない。O.ヘンリーの短編みたい。(ほめことばヴァージョン)</p> <p>水なんだから、輪廻転生して、また戻ってくるよね。枯れちゃう、一回限りのツワブキとは違うのでは。(ツッコミヴァージョン)</p> <p>特別賞：今週のニヤニヤ大賞(主に書記の人がニヤニヤしたから)</p>		
A04	O.O.C隊員の最後の日記	25 pt	1 位	5 sp
		<p>G = ゴキブリの出現は、この季節のコラムランドの風物詩。今年は何匹出現するのでしょうか?</p> <p>そんなありがちなネタなのに、この作品が映えるのは、戦闘員っぽい言葉づかいがきちり達成されていることと、そしてもちろん、ハエタタキ・シンブンシのユニーク表現の楽しさ。こういうサーヴィス精神が読者にはうれしいですね。</p> <p>もののみごとにヒットして圧勝&最多特別賞でした。おめでとう!!!</p> <p>特別賞：ひねりすぎで賞(ナゾがとけたときの感動)/バル・サン賞/ゴキちゃんかわいしょう。/南口賞/まっくるで賞</p> <p>イチオシフレーズ：「Order of Cockroach万歳っ!!」「S - NBNS」</p>		
A05	Kappa - エビセン - 体内に及ぼす影響	4 pt	8 位	3 sp
		<p>やめられない止まらない。どんどんどん暴走して、ラストにぼろりとエビセン。</p> <p>爆笑の破壊力でした。</p> <p>事前にT A陣が予想したほど順位が伸びなかったのは、ゴキちゃんに食われてしまったのか!? エビセンだけに。</p> <p>特別賞：カルビー賞/止まらない賞/メタボリック賞</p> <p>イチオシフレーズ：「メタボリック」</p>		
A06	The days of an arm	9 pt	4 位	1 sp
		<p>人がモノになる悲惨。描ききって迫力。</p> <p>イメージはゲッターでしょうか? それとも起こりうる未来でしょうか。</p> <p>あまりに救いのない展開に、読者のほうがつらくなりますが、敢えてそこへ追い込むのが執筆意図なのかな、と読みました。</p> <p>特別賞：技術賞(読者を引き込む文章だから)</p>		
		1 pt	10 位	1 sp

A07	どすこいでゴワす！！	<p>おすもうさん。ブログ、ということでしょうか。友達トークを聞いている気分で読めました。</p> <p>「自分ガキですから」あたりの素(す)のトークが好感度大。</p> <p>「空気読めよ」というラストの言い方はちょっときつい印象なので、もっとふわっと終わってもよいのでは。</p> <p>でもこの「ひとさし」が良かったのかな。特別賞の命名にもなりましたし、なんと言ってもイチオシフリーズ大賞ゲットです。おめでとう</p> <p>特別賞：空気嫁賞 イチオシフリーズ：「空気読めよ」×4 「うわあ あああい おすもうさんだあ」×2 「どすこいでゴワす」</p>
A08	5月17日(木)	<p>6 pt 6 位 1 sp</p> <p>リアルだなあ、実話？ 「こまったときだけこまればいいじゃん」という友達のアドバイスがてきとーなようできて、けっこう深い。</p> <p>ふっと気持ちの軽くなる展開に、丸ゴチックがよく似合う、なごみ系作品でした。</p> <p>特別賞：努力賞 イチオシフリーズ：「明日おれはこまるだろうが無駄な時間は使っていない。」</p>
A09	オン&オフ	<p>8 pt 5 位 1 sp</p> <p>どうしても日付を追って順番で、という約束事になりがちのなか、一日戻ってタネアカシ、という固定観念のはずしかたが秀逸でした。</p> <p>つくりも楽しく、話題も親しみやすく、かつ、知らないほうがしあわせなことって世の中にあるよね、とこっそり盛られた人生哲学(?)に納得。</p> <p>特別賞：酒乱賞 イチオシフリーズ：「半裸で一人鬼ごっこ」×3 「てめえらなんか俺がこの部活に入るまでの前座に過ぎないんだよ！」</p>
A10	凍狂一週間	<p>6 pt 6 位 0 sp</p> <p>恐いおじさんシリーズ。招かれざる訪問客がつつぎと……。展開はシンプルなのですが、話を視聴するとか、心を浄化するとか、それぞれのエピソードへのツッコミがくすりと楽しく、しかもこんなにさんざんなめに遭っても、「俺も混ぜてよ」とカラに閉じこもらない主人公に共感。</p>
A11	あの日を記す	<p>0 pt 12 位 0 sp</p> <p>ていねいに自分史をたどって、ラスト未来へ向けた思いがずっと広がります。</p> <p>「あの日」が、それぞれ違うのでしょうか、リアルな数字をはめこんでゆくと、もっと日記っぽくなったのでは。</p> <p>イチオシフリーズ：「鹿にタックルされた」</p>
A12	月×日	<p>3 pt 9 位 2 sp</p> <p>空白に語らせるワザでした。</p> <p>センチメンタルに始めて、ちょっと迷いの空白があって、やっぱりやめとこ、と引く自分があって。乙女ゴコロの三変化(へんげ)、きちっと読みとっていただけたでしょうか、男子諸君！</p> <p>特別賞：ハズかしい賞(アンネの日記を持ち出す発想力が好き)/日記で賞?(変な日記でよかった。実は日記書いてない) イチオシフリーズ：「やっぱりやめとこ」</p>

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位特別賞
B01	好奇心のむく先	<p>13 pt 4 位 2 sp</p> <p>タイトルがおいしい！ 「向く」と「剥く」のかけことばがしゃれてる！ ラストがおいしい！ みかん編をあれこれ想像して読者が楽しみをふくらませられる！ 身近な話題なので、ディスカッションすべりだしのトークも盛り上げられるし、いや、じつにみごとな今週の「表紙」作品でした。 会心のバナナ裂き、お茶会で実演していただきましたよ、作者さんが。 特別賞：バナナマスター賞/ゆるゆるがいいで賞 イチオシフレーズ：「みかんを食べた」×2 「バナナが、裂けた」</p>	
B02	暖かい人	<p>0 pt 8 位 0 sp</p> <p>犬かな？ 猫かな？ 一緒に寂しくなると一緒に暖かくなれます。それは、「ぼく」の気持ちだけにフォーカスし、「ぼく」から見えた光景だけを描くという誠実な手法に徹しているからだと思います。 ずっと気持ちが寄り添ってゆける好感度大の作品でした。</p>	
B03	最後の晚餐	<p>14 pt 3 位 0 sp</p> <p>文章力、完成度ともに高いです。 でもモノ書き中毒って、モノ書きが書きたがるテーマで、新味がないのでは。手法としても、すべてが説明セリフで、かつ冒頭とラストの間に状況の進展がない、つまりストーリーが動かないのも、物足りない感を強めます。 先週のメロンゼリー（落選作品）のほうが、おいしかった、もとい、おもしろかったなあ。。。 それにしても「食べる」ことのほんとお好きな作者さんですね。</p>	
B04	Three days boy	<p>0 pt 8 位 2 sp</p> <p>コメントの入れようがないです。オチに合わせるなら三日分はほしいところ。 でも、このどーんと空白感が演出意図なのかな、と。 特別賞：12がなかったらよかったで賞（ネタがかぶったから）/努力賞（がんばれ）</p>	
B05	～1020日と17冊の重み～	<p>0 pt 8 位 0 sp</p> <p>かわいくてしみじみ。 二人で向かい合って書いてる1月1日のくだりなんて、しあわせ感満開です。 高校生～大学生くらいの設定でしょうか。おしあわせにっ。 イチオシフレーズ：「ケッコンシヨウ」「ちなみに俺はこのまま永遠にこの日記は続けたいな。」</p>	
B06	錯綜	<p>24 pt 2 位 0 sp</p> <p>緻密な構成にブラボー！ 映画「クラッシュ」を思い出しました（この半年間に見たDVDでMYベスト3に入るオススメ作品）。 かしゃっかしゃっカメラアングルが切り替わるたびにしている現象の「意味合い」がくるくる変わる。そんなカオスな社会の機微をみごとにつかまえてコンパクトに凝縮したワザ師に乾杯であります。</p>	
B07	交換日記～みっちゃんとさっちゃん～	<p>2 pt 7 位 3 sp</p> <p>らくちんみっちゃんの天然ボケがすてきに楽しい。そこがイノチかな。 ただ、子供の作文にしては、いかになんでも漢字が多すぎて不自然。小学生設定ですよね。かたっぽうが、じつは先生でした、とかそんなオチではないですよ？（これも楽しいかも） TAさんに教えられて、二宮金次郎都市伝説を初めて知りました。豆知識ゲット。 特別賞：みっちゃん！えらいで賞（みっちゃん！すごいよ！）/さっちゃんみっちゃん賞/全（きん）賞（みっちゃんが魅力的） イチオシフレーズ：「5 / 1 1（全）」×2 「二宮金次郎像は動かないよ」</p>	
B08	メビウス	<p>0 pt 8 位 0 sp</p> <p>うわー、シックス・センスだっ、て思いました。 幽霊になった気持ち、幽霊になったくせに幽霊だと気づいてない気持ち、描写がリアルで引き込まれます。特に、お墓の前での「まるでそこにだけしか『僕』がいないかのように……」が絶品。</p>	
		0 pt 8 位 2 sp	

B09	密やかな愛の独白	<p>タイトルが凡庸なのが、しみじみ惜しい。長すぎるのもしみじみ惜しい。でもすごい迫力の言葉の洪水に押し流されます。とりわけ7/10の「日常に寝転がる」、7/11のアッシリア、7/14の生首がパワフルな表現として突き刺さってきて、くらくら。真夏に似合うこってりテイストの作品でした。</p> <p>難点は、すべてのパーツが自己主張を強くするので、かえって焦点がぼやけてしまう、というところでしょうか。</p> <p>特別賞：精神がやばいで賞/ドンマイ賞(よくわからない)</p> <p>イチオシフレーズ：「Iのアイへの愛がiであったのではないか」</p>
B10	ポチのご主人観察日記	<p style="text-align: right;">3 pt 5 位 1 sp</p> <p>無条件でご主人を慕うポチのけなげさが、するすると伝わってきて、なごみます。</p> <p>「四月一日って」というラストが特にいい。ご主人をさりげなくいたわろうとする、ポチのあたたかみが詰まっているような。</p> <p>特別賞：エープリルフール賞</p>
B11	連鎖	<p style="text-align: right;">31 pt 1 位 1 sp</p> <p>殺意の連鎖が恐いです。遺書のタネアカシもきれいに入って、この短さでしっかりドラマを感じさせたミステリーでした。日記のかたちで＝一人称視点で展開して、さいごの1行でするりと引いた視点を提供。その痛快さも奏功してか、圧勝でしたね、おめでとう！</p> <p>特別賞：コナン賞(見事な推理)</p> <p>イチオシフレーズ：「何か探し物かい？」</p>
B12	とある日記のひとこま	<p style="text-align: right;">3 pt 5 位 4 sp</p> <p>1行コラムはこうありたい。まさに、お手本のような。</p> <p>1行コラムは一字のミスが命取り。その点でも、お手本のような。</p> <p>特別賞：(うちらが。)深読み賞(どうやって書いた? 日にちと曜日があってないのは??)/でたらめ賞/小ミス賞(ミスがちょっと面白い)/レイアウト賞(意外にこっている)</p> <p>イチオシフレーズ：「26」「明日書きます」×4で、こんなに字数が少ないのに最多特別賞&イチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう！</p>